
本学におけるオンライン授業の評価と課題

～2021年度学修行動・キャンパスライフ調査の結果から～

2022年度 I R レポート

2022年9月29日

I R 推進室長 小林 章人

1 2021年度調査におけるオンライン授業関係の設問

●オンライン授業関係の設問

問C-1 授業内容の理解という面で、対面授業と比べてオンライン授業をどのように思いますか。当てはまるものに、それぞれ1つ○を付けてください。【ライブ型・オンデマンド型それぞれ】

問C-2 全体としてオンライン授業に満足していますか。当てはまるものに、それぞれ1つ○を付けてください。【同上】

問C-3 オンライン授業で良かったことは何ですか。当てはまるものに、それぞれ3つまで○を付けてください。【同上】

問C-4 オンライン授業で困ったことや不安に感じたことは何ですか。当てはまるものに、それぞれ3つまで○を付けてください。【同上】

問C-5 オンライン授業が導入されたことで、自宅などでの1日当たりの学習時間が増えましたか。
(授業に関する予習・復習、課題対応等の時間。※オンライン授業の視聴時間を除く。) 当てはまるもの1つに○を付けてください。

問C-6 新型コロナ感染症の収束後の授業のあり方は、どのような形がよいと思いますか。当てはまるものに、それぞれ1つ○を付けてください

問C-7 オンライン授業は主にどのような方法で視聴しましたか。 (2つまで選択可)

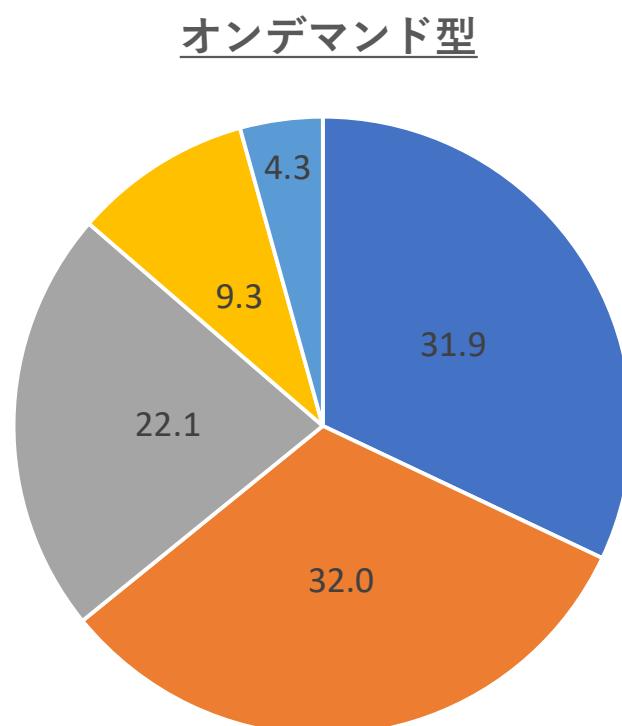
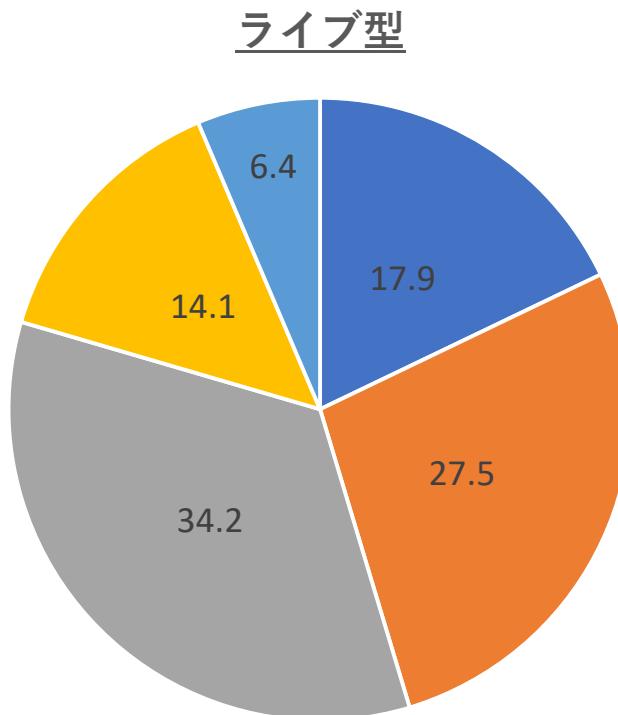
【2021年度学修行動・キャンパスライフ調査の概要】

- ・対象者 大学・短大全在学生 1053人 (大学 774人、短大 279人) ※2021年11月末現在
- ・実施時期 2021年12月 ・回答数 914人 (大学 646人、短大 268人) ・回収率 86.8%

2－1 オンライン授業の評価（その1・授業内容の理解）

Q 授業内容の理解という面で、対面授業に比べてオンライン授業をどのように思いますか。（それぞれ1つ選択）

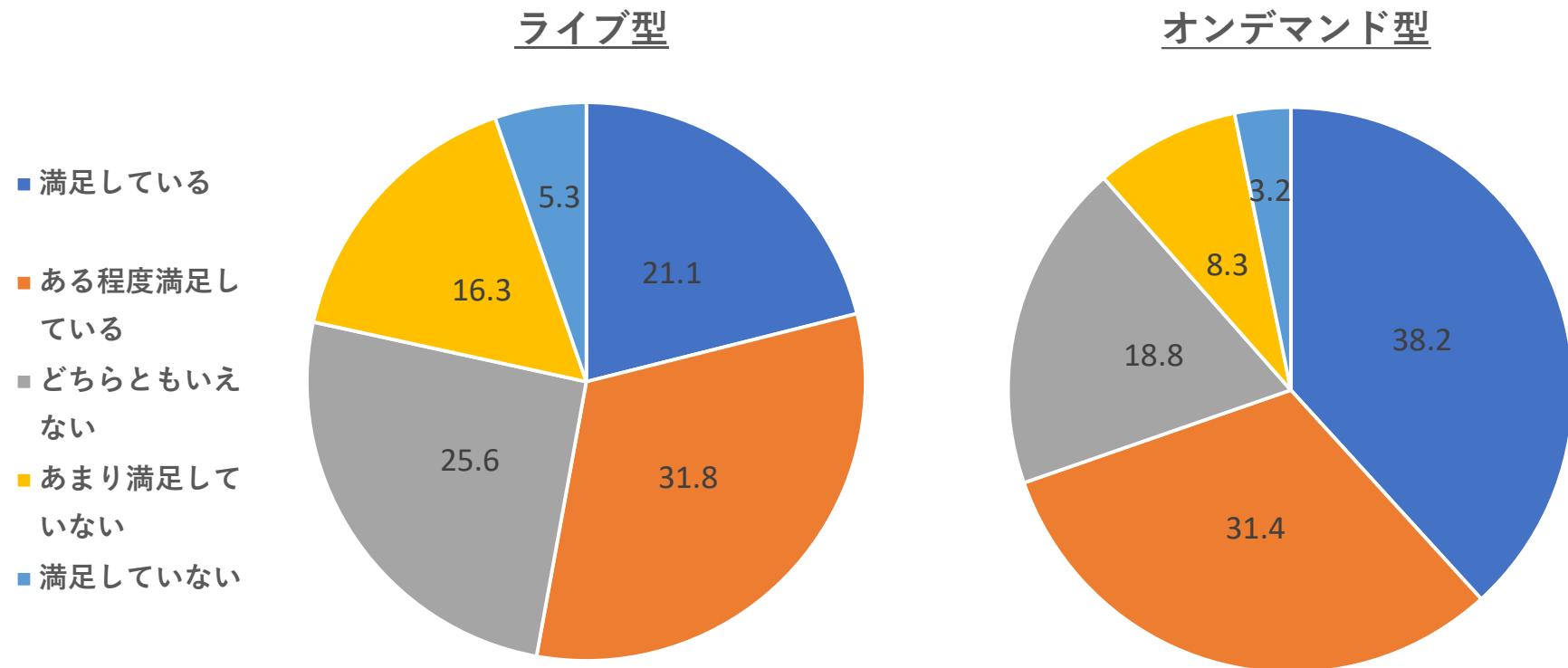
- 理解しやすかった
- どちらかといえば理解しやすい
- どちらともいえない
- どちらかといえば理解しにくい
- 理解しにくい



- ライブ型では「理解しやすかった」と「どちらかといえば理解しやすい」を合わせると45.4%で、半分近くが対面授業よりも授業内容が理解しやすいと評価した。
- また、オンデマンド型では、上記の合計が3分の2近くの63.9%が理解しやすいと回答した。

2－2 オンライン授業の評価（その2・満足度）

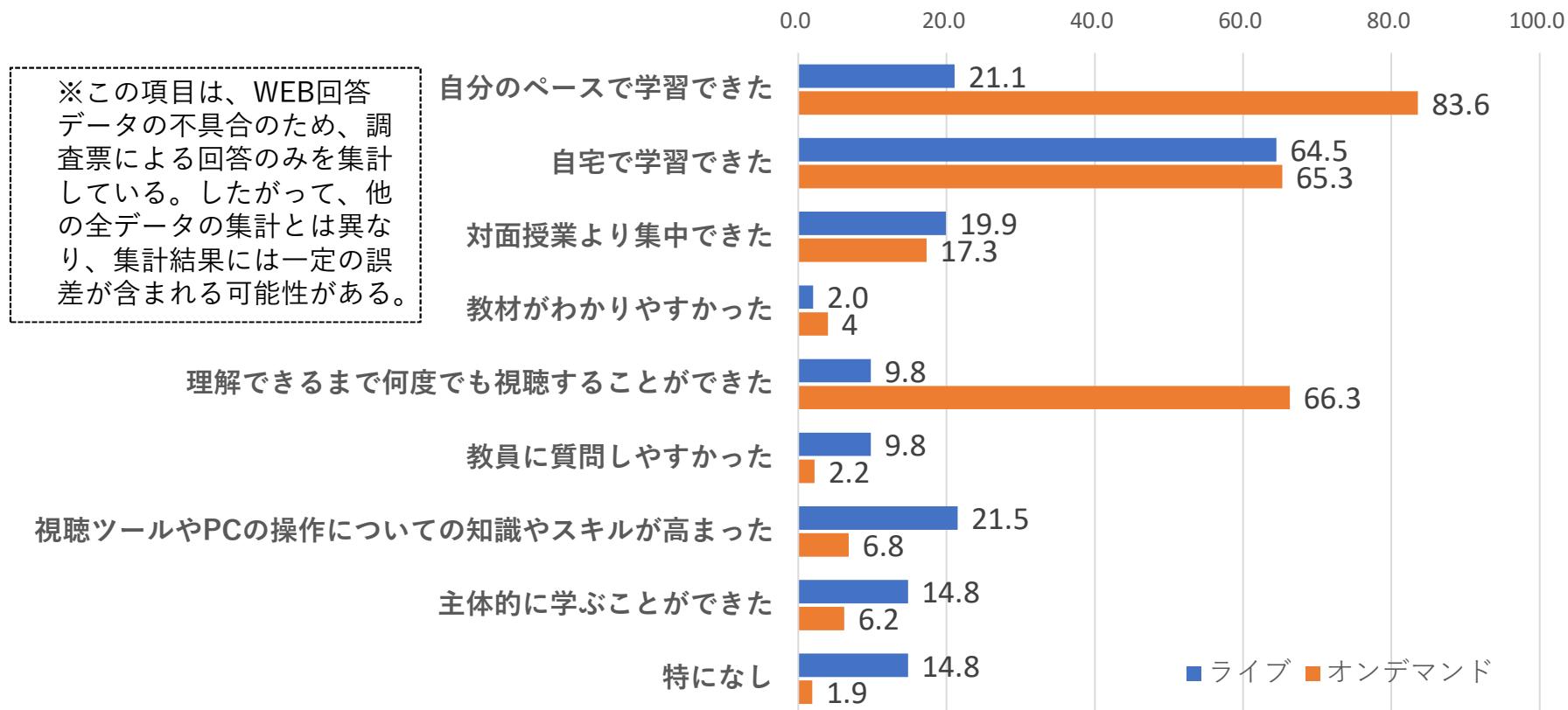
Q 全体としてオンライン授業に満足していますか。（それぞれ1つ選択）



- ライブ型では「ある程度満足している」を含め、半分以上の52.9%が満足していると回答した。
- また、オンデマンド型では、「ある程度満足している」を含めると約7割(69.6%)と極めて高い満足度となっている。

2－3 オンライン授業の評価（その3・良かったこと）

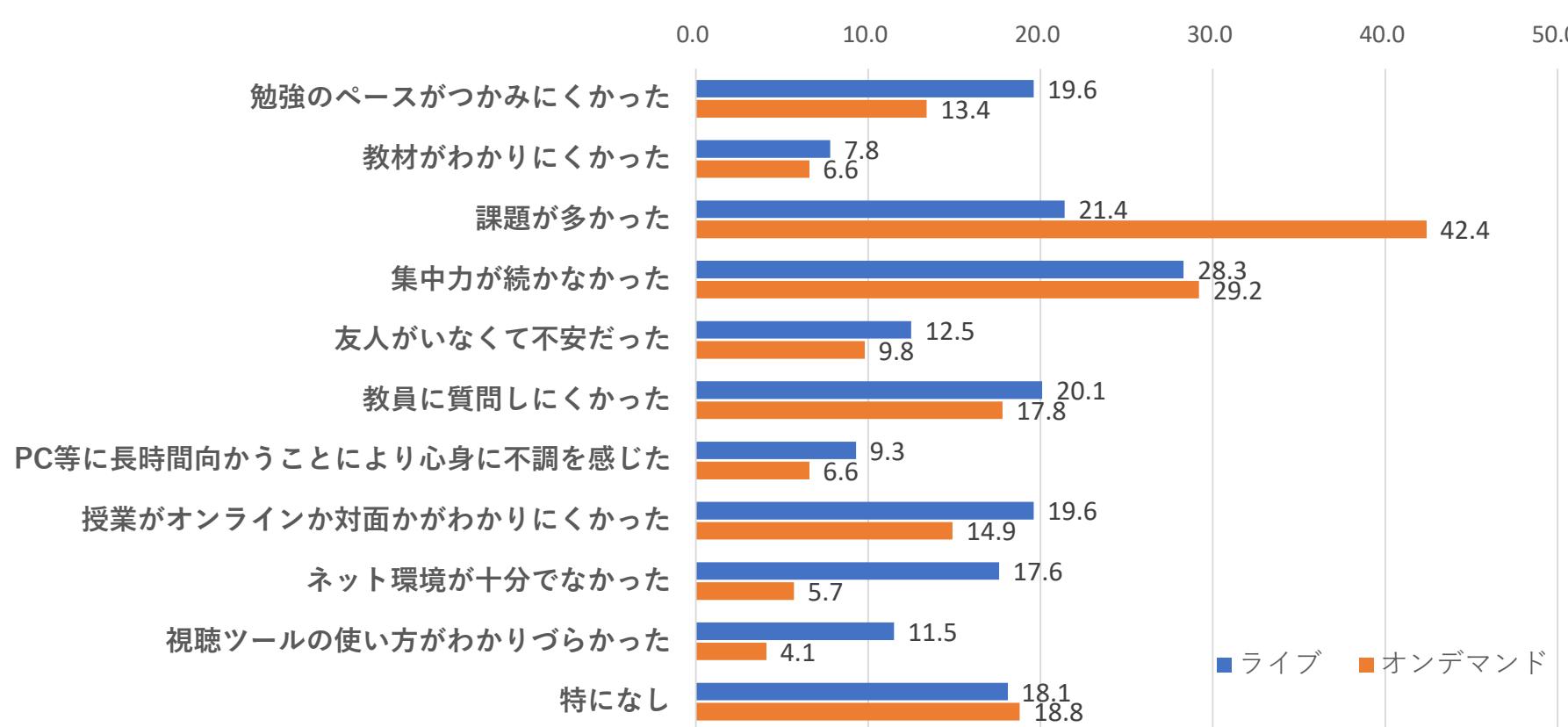
Q オンライン授業で良かったことは何ですか。（3つまで選択可）



- オンライン授業で良かったことについては、最大3つまで回答できるなか、ライブ型、オンデマンド型ともに約3分の2が「自宅で学習できた」を選択した。
- ライブ型では、それ以外に突出したものはなかったが、オンデマンド型では「自分のペースで学習できた」が83.6%、「理解できるまで何度も視聴することができた」が66.3%と高くなっている。

2－4 オンライン授業の評価（その4・困ったことや不安）

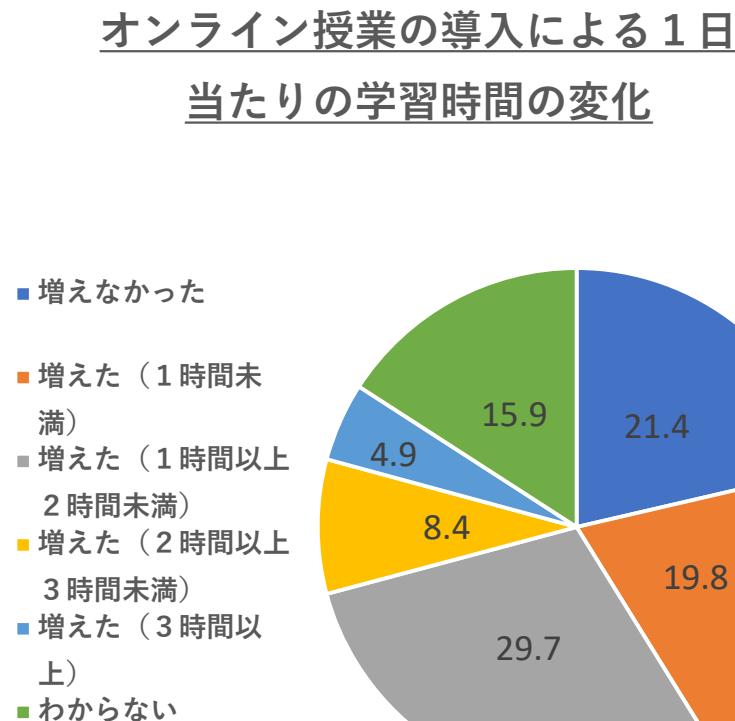
Q オンライン授業で困ったことや不安に感じたことは何ですか。（3つまで選択可）



- ライブ型、オンデマンド型とともに、「集中力が続かなかった」が3割弱、「特になし」と「教員に質問しにくかった」がそれぞれ2割弱あった。
- また、「課題が多かった」はライブ型でも21.4%あったが、オンデマンド型では42.4%と高率となっており、ライブ型では「ネット環境が十分でなかった」が17.6%とオンデマンド型に比べてかなり高くなっている。

3 学習時間面からの効果

Q オンラインが授業が導入されたことで、自宅などでの1日当たりの学習時間（授業に関する予習・復習、課題対応等）が増えましたか。

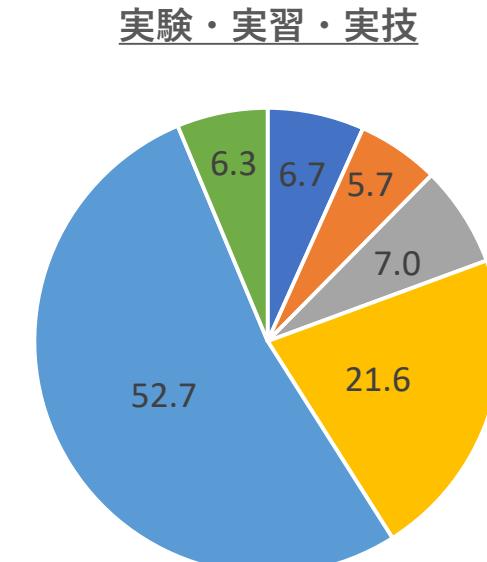
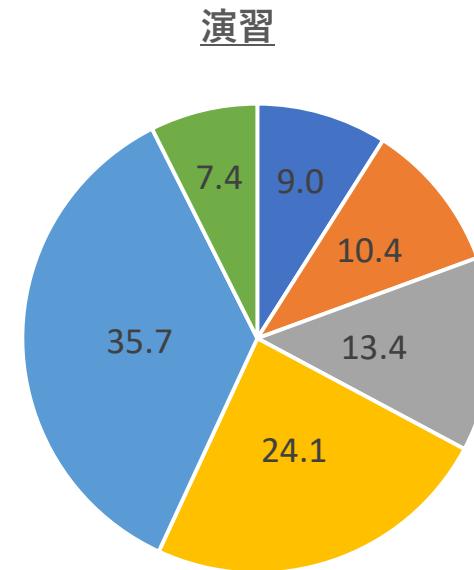
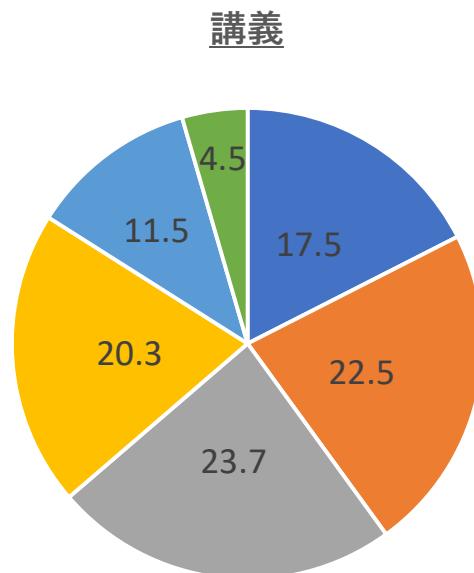


- オンライン授業の導入によって、1日当たりの学習時間が増えたと回答した者は全体の6割以上 (62.8%) となった。
- これは、オンライン授業での課題の多さという消極的な理由もあるが、オンデマンド型の良かったところとして約3分の2が挙げた「理解できるまで何度も視聴することができた」といった積極的な理由によるものが多いのではないかと考えられる。
- 一般的に学習時間の増加は、GPAの上昇にも繋がることが期待されるところであり、オンライン授業の導入による学修成果の向上という流れは、今後も継続していくべきではないかと考える。

4 – 1 今後のオンライン授業のあり方（その1・学生の意見）

Q 新型コロナ感染症の収束後の授業のあり方は、どのような形がよいと思いますか。（それぞれ1つ選択）

- すべてオンライン
- 併用（オンライン主体）
- 併用（オンラインが半分程度）
- 併用（対面が主体）
- すべて対面
- わからない



- 講義については、「すべてオンライン」または併用がよいと回答した者が84.0%で、そのうち「すべてオンライン」とオンライン主体の併用の合計が40.0%となっている。
- 一方、演習については、対面主体の併用と「すべて対面」の合計が59.8%、また実験・実習・実技については、その2つの合計が74.3%で、そのうち「すべて対面」が52.7%と5割を超えている。

4 – 2 今後のオンライン授業のあり方（その2・課題の整理）

- 本学の今後のオンライン授業のあり方について、今回の学修行動等の調査結果（以下「調査」）と「保育者養成課程におけるオンライン授業への取り組み(2)※」（以下「論文」）での分析を踏まえて課題を整理する。

① 他の学生との交流機会の確保

- 1年生を中心とする学生から「みんなと学習するという安心感」、「一人学習への不安」などを理由とする「対面授業の方が良い」との意見が寄せられたことを踏まえた、他の学生と直接的に交流できる機会の確保（論文）

② オンライン授業の環境整備

- 学生の視聴環境（視聴機器・通信環境等）の確認等（調査、論文）
- LMS（Learning Management System：学習管理システム）の選定等（論文）

③ オンライン授業実施上の課題

- 「課題が多い」との学生の声への対応（調査、論文）
- 「課題が提出できているかわからない」という学生の不安への対応（論文）
- 「教員に質問しにくかった」との学生の声への対応（調査、論文）
- 学生が集中力を維持できる工夫（調査、論文）

※「保育者養成課程におけるオンライン授業への取り組み(2)」（山陽論叢第28巻所収）

著者：岡田 典子1)・権田 あずさ2)・児玉 太一3)

1)2) 山陽学園短期大学こども育成学科 3) 岡山県立大学保健福祉部子ども学科

4 – 3 今後のオンライン授業のあり方（その3・検討事項等）

- 学生同士、学生と教員との交流の機会を十分に確保することを前提に、対面授業とオンライン授業とのベストミックスのあり方、1つの授業科目の中で対面とオンラインを組み合わせるブレンド型も含むハイブリッド授業のあり方等の検討
- BYODの導入検討と併せて、学生のPC保有状況等の調査を実施
- 調査等で示された学生の意見を十分に踏まえながら、より質の高いオンライン授業の実施に向けた「オンライン授業実施ガイドライン（仮称）」の検討。また、その検討の中でLMSの標準化等についても検討

Q オンライン授業は主にどのような方法で視聴しましたか。（2つまで選択可）

